地方根元記

9

7 3
3288
4

門 7ORS
號 3.289
卷 4

検地根元 新田願吟味之次第之事

一 検地ハ永禄年中初タルトイヘ𪜈年數不知其後色々ノ説雖有不祥可考事也

一制度通曰古ハ五尺ヲ一歩トシ今ハ六尺ヲ一歩トスルノ異同アリ然𪜈土地五尺ト云ハ即今大尺ナリ惣別ハ度量衡トモ大小ノ二様アリテ田地米穀ヲ斗ルニハ大枡長又用度量下論ノ通ニテ土地ノ廣ヲ積ニハ一尺モ寸尺ヲ用テ一尺トス是ヲ大尺ト云五尺ノ内ニテ二寸宛ノワルハ一歩ニシ六尺トリ然レハ古五尺ヲ爲歩云モ今ニテハ六尺一間也

田園類説ニ曰按ニ木文之通

ニ入ル文の乃ち記ハ俗ニ間竿と記して也ル
とも其ニ歩一歩つゝかつ来ル所ニ今ハ六尺を歩乃竿と記ニ毛通ス
ハ古と記ス

一間ニ摂りたる六尺の事ハ今の吉領の物指之山ハ六尺ハ曲尺の事
事ハ六尺五寸ニ論ス

一三番故畧云中粟以來以曲尺六尺五寸爲歩此歩法未審其所始或謂昔者量地之竿長一丈三尺併二斗人立掟中間兩端送昴迹黙地而以進行首尾按續以度之蓋取其間梳也今老ノ人立提手有腰間去地可二尺五寸爲付地歩六尺爲肢而依術求其法高得六尺五寸故制竿兩頭名六尺五寸通謙十三尺後用此竿就而度意以六尺五寸爲歩而太三之竿迨今尚未改耳元和以降新田法六尺五寸爲歩三拾歩爲段拾段爲町計方而以六尺五寸爲一間六十間爲一町此書合改並用此法近年又捷地六尺　竿俛如舊法以其未久故此不取之

田圃穀錄に中葉以來六尺五寸を一歩といへるハ上方筋ハ古法の村
にして六尺五寸竿の場所と申傳へたる所の如くなれハかくいへる

と村に於地は八旬論ずる外何にても詐りなき事にて是地面を廣
[illegible]

[illegible]

一制度通曰　本朝之古判凡田長三十歩廣十二歩爲
段十段ヲ爲町右ニ準ヒ指ス
一日本紀云　孝徳天皇三年春班田処訖九田長三十
歩爲段十段ヲ爲町本朝古ヘ歩數ハ唐ニ準シテ五尺
ヲ一坪トス一段ハ三百六十歩十リ一町ハ十段ニシテ

三十六百坪也町ハ唐ノ頃ニ準シテ廣狭アリ今ハ三十
坪ノ町トシ三百坪ヲ段ス是ハ天正年中ヨリ始ト云リ又一反
割テ一畝ト云フ何頃ヨリ始ルコト不知
田園ト云ハ公ノ墾田ヲ云ヒ園ハ公ノ園地ヲ云ヒ
ハ要言ノ如シ

程ハ古法も廃して歩の数を以て大半小なとし出来て縦横の尺をもて
知れり歩の数を以て積を見るなり
此拵云是大人令の後の拵ニ小人の田を定めて歩の数を定
勢の無禄を従ふへき也従ふ田のなるとてハ田の数を以て
漢の法に従ふハ六百歩ニ従ふへき也

唐ノ歩畆頃　本朝歩ノ段町準ㇾ田地ニ段ト云フ漥_{ツモリ}
見アタテス然氏一ㇾシキリヲ段ト云フハ後世迫ニ多ク
見タリ田地町ト云ㇼ逐ニ見アタラス左傳晉寂云二十
五年ニ云町原防ト住民集解云隄防間地不ㇾ得方正如井
田則爲小項町賣逹曰原防ノ地九夫爲町三町而当
一井也ト此説ヨリ木ツクノ所ナキニヨリテ先儒モ所用
ラレス然氏町ヲ以田地ヲハカルㇾ丁是ニアハル、本朝町
段名モ是ヨリ云ル成ヘㇾシ字彙ニ町ノ字ヲ解ㇾテ云　田色ノ畔
埒トアリ田地ノㇾキリシノ云フ又段ノ字ト相通用スト見タリ

拾芥云凡田以方六尺爲二歩三十六歩爲一田段頭
注ニ三百六十歩爲一段積七十二歩爲下代百兩十歩
爲廿代二百六十歩爲卌代二百八十歩爲四十代五
十代爲一段戈六代頭也
田囲ハ田積ニ三百六十歩を以て一段とし小割とみえたり　故に古は五十代
そして五十代を一段とし是を積したれハ廿代ハ百四十歩なれハ四段
歩の数をもて五十代ハ三百六十歩とし一段十歩也廿代を尺としたる也
書紀ニ従ひて一と思ひ拾芥抄を按するに其文あまた通したれハ
拾芥抄の形をもて従ふへきなり
今按するに今の歩数を古し小割ニ歩数ハ古代の歩数ハ
二十代を一段ハ二十代と八段ハ五十代と云ふへからす
一歩一段ヲ積リ拾芥ニ載ルトコロ合テ文ト異ルㇾナㇾ其内
令ニハ五尺、四方ヲ歩ト云拾芥ニハ六尺リ歩ト爲ル、ノ別レアレ
氏令ニハ長尺ヲ以積タル物ニ而是ㇾ替ルㇾナㇾ但代ト云フ
式ニハ見エㇾ氏令ニハアラハレス五十代リ一段トスル

時十代ハ今ノ二畝斗リアタル古ノ詞ニ二十代田ヲ一ト訓ス鄙是又十リ又段字今反ノ字ヲ用是ハ段字竹書ニ及ル故ニ訛ノ轉シテ如斯拾弐又曰一段爲一町頭十段爲一町積三十六町爲里起従西行於東卅六町始良終乾但已上可隨国例　右ノワケ又令ニ見ヘス其後ノ制法ト見ヘタリ是ハ今ノ三十大丁一里四方ノ處西ヨリカリヘ始メテ一里ニ里ト云毎一里法一町ノモノ卅六箇アリテ幅一町ニ長リ六町ナリ又是ヲ北ヨリカリヘ出シテ一條二條ト云毎一倍又方一町ノモノ三十六箇アリテ幅一町ニ長三十六町也里ト云モ條ト云モ同リニテ竪ト横トヨリ積ル迫ノカハウナリ古ヘ田地ノ分ケノ定法ト見タリ今ニ至テ御村ノ名東條西條ホノ名アリ又右ノ文書某條ト云多クハ古ヘ通リ行ヒタルナリニテ中古以来其法廃絶ト見タリ拾弐又云條里ノ起リ可隨国例是ニテ知ヘシ本朝モ中国ノ法ニテ一里ノ内ニ小名ナシ何里何町ト云ヲ見ス拾弐町爲一里ト云アリ上ニ論通ニテ田地積方一町田ヲ卅六ツヘタルノ云路程ノ二アラス卅六町一里ト道法ヲ積ルハ是等ヨリ轉シタルナルヘシ惣テ列　本朝里ト云ヲ三様アリ一ニ令ニ以五十戸爲一里云ハ土地ノ廣狭ノカコハス家數ヲ以テ一在所ヲ立ルノ名也雑令ニ凡三百歩爲一里ト云ハ路程ノ法ナリ三十六町爲一里ト云ハ田地ノツモリナリ其分ケ不同ス

国宝の歌法ともうすものを制ある通の辞ごとに答ふる
ごとくみなおのおの物ゝ毎ごとに
ひとつの歌ごとに一町ずゝ福虎をふくむ通ごとに答ふる
ごとくみなおのおの物ゝ毎ごとに
ひとつの歌ごとに一町ずゝ福虎をふくむ

又曰百姓家一軒ト調ハ人数ニ以レ百ニ五人一軒ト

ト見タリ既ニ甲斐国八代郡一之宮造立勧化之節於一軒ヨリ籾五合宛以判外可入ニ勧進ト有アリ 其節三人ヲ竈ハ二人竈ウカヘ十人竈ハ二軒ニ云ルト云 五人養者ハ定ノ一軒之十人養者ハ大百姓ノ内ナリト云

田園曰大半小之事

大半小ハ田地ニ而云百姓をこいふなりけし小名それそれの[illegible]且高をいふなり然るに[illegible]検地[illegible]云百姓なる

又今 大半小と[illegible]今思検地

一 地方の書には世にいふ大閤検地と申ハ永禄年中[illegible]田畑名寄[illegible]検地[illegible]

田園[illegible]大閤検地ハ[illegible]検地[illegible]

大半小[illegible]

検地[illegible]大高ハ[illegible]

旧検地ハ東国西国[illegible]検地と[illegible]

ハ論[illegible]検地も[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 田園ニ曰[illegible]天正十九年検地[illegible]

小検之内

一 中田[illegible]

一 下田[illegible] 大検[illegible]

田[illegible]

田園[illegible]時代ハ関東[illegible]

[illegible]検地[illegible]

[illegible]検地[illegible]

又曰大平記云相模守近国ノ又庄八箇所自筆ニ補任ノ書
テ青砥左衛門ニノ給ヒタリケル左衛門補任ノ咎ヲ見テ大
ニ驚テ是ハ今何事ニ三万貫ニ及ブ大庄給リ候ヤラン
ト問云ニ
田園掛ケ云ヒ小袖ヲ脱ヒ給ヒシ程ノ事ニ候ヒキ
又曰西国太平記云宴ニ征夷将軍義晴公ノ世毛利元
成ト云人アリ源頼朝ノ執事大膳大夫大江広元
末葉トソ聞エシ中頃零落シテ一所懸命ニシテ世ヲ
送リケルニ尊氏将軍西国用下向石列佐波ヲ退治ヤラ
ル、ニ江州先陣シタル忠節ニテ藪列吉田ニテ一
千貫ヲ賜ケリ又應仕ノ乱ニモ利小早川藝列ヨ
リ京都ニ登リ室町ノ御所ヲ警固シナリ大永三年中モ
利広元ト云人男子二人アリ嫡子與阮好藝国音田
郡苦田ノ城居テ三十貫ノ領ス其弟元禄同国多治北ニテ三百
貫ノ世帯ナリシ
又曰後柏原院御宇ト云カヤ一條関白右大臣数房公

ノ子息権大納言房家卿給ヒ土佐國（下向アリ畑
卿ニ屋形ト立土佐ノ御所トヤ也則一万五千貫所領
シテ当郡ニ居城セラル其外津野五千貫木山五千
貫吉良五千貫安喜五千貫香宇我都
四千貫長宗我部三千貫此外小給人ハ記スニ不及
皆一條家（附属シケリト云々

扨モ豊臣秀吉公一統ノ後ハ
又曰銀録云武士知行ノ事十貫或百貫ト云モ當時
モ百姓ノ調ニノヨリテアリ田一坪苗一把種ノ
ニテ百坪ニハ百把種是ヲ百目ト云千此二千把種是
ヲ一貫目ト云此積ニテ大抵十貫ハ百石百貫ハ千石
ナリ併上中下ニヨリテ一定セス是古法ナリ

四国攻ニ際シテハ豊臣秀吉公ヨリハ軍役ヲ四国ヘ
下シ給ヒテ軍役ヲ調ヘ引連テ馳参ルヘキ旨ノ御
朱印ヲ頂戴セシ諸将ノ軍役ヲ左ニ記ス

一又田畑受書にて分ケ候節、

則運送容易而穀價貴故錢數漸多寶來地有僻遠則
運送艱難而穀價賤故錢數漸少遙如奥州右者以十
貫充百石今世以土貫充百石土十貫充千石是近世
何渠漸開而舟揖之利海不通之故也

圖會按云 永楽銭ハ関東より東海道筋ニ[illegible]
永楽[illegible]
[illegible]永楽銭と田地[illegible]
[illegible]田地[illegible]
[illegible]百貫[illegible]
八穀物[illegible]
も八百石又ハ七百石又ハ六百石[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 永楽[illegible]
永ハ永楽銭[illegible]

[illegible]永楽[illegible]
[illegible]世[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一草蘆推談云中古治乱云應永十年八月大風二日ノ
丑刻ヨリ三日巳刻マテ吹其風前代未聞ナリ其日
ノ申刻相州三崎浦江（三崎今ハ豆州トス イカヽ考ヘシ）源舩一艘来ル是
利満兼下知シテ印東次郎左衛門梶原能登守三浦
備前守儀高奉行シテ點撿ス悪風ニ放タレテ来ル

ヨレ申ニ白船中雑物ノ頭品不残没メシ中ニ永乐
銭数百貫ヲ積来レリ則船ノ
上セテ道義義時卿ノ使者ヲ京都ニ
ハ是満兼ノ徳分タルヘシト被申ニ唐船関東江者岸スル
ノ財宝ノコラストヽメ唐人ニハ帰唐ノ日ツモリ
其余分ヲ考ヘテ粮米味塩薪等ヲノ外色々アタヘ
テ帰船セサセラレケリ

抑ハ財宝貨通用ノ事ハ
異朝ニモ事多キ閑ニハ通船多ト見ヘタリ
其後満兼評義シテ若干ノ永樂銭関東ニ此銭ヲ以賣
買スヘシト諚シテ頻テ法ヲ定永乐銭ヲ用ラル然
ルニ此銭年ヲ経テ後天文十九年ノ頃ハ関東諸民
ニ永乐銭ニ鋳ト云悪銭ヲ交ヘテ同直段ニ用シカ
ハ賣買市町カノ悪銭ヲ論ス争闘ニ来タリ 敦書抄ニ引頭関東ハ

永樂ヲ貴テ京銭ヲ鋳ト云ト見ヘタレ共近
頃令條記ヲ見レハ慶長十一年七月廿三日ノ令ニ
云下総國佐倉ヨリ東ニテ佽シ銭トリヤリ仕ヘカ
ラヌサン銭欠銭新悪銭撰不可申候ト是ニテ見レ
ハ關東ニテ此頃密々悪銭ヲ鑄ナルヘシ又寛永ニ
年八月廿七日ノ令ニ云大欠役銭カタナシニロ銭
新鋳銭鉛銭此六銭ヲ卩ラムヘカラス若有之ハカ
若又ヨラヒヒんモノヌ又六銭押テ遣候者アラハ其西
火印ク可押ト云トナレハ悪銭色々アルヿ明ナリ然
ハ関東ニテハ京銭ク
云ヿト見タリ京銭ト
朝室分通用事畧ニ明
一送リシテ永乐銭我國ヘ
来テ御ト
天文ノ末北条氏康ハ列ケ下知セシ故家臣山角信

濃守定信足原越前守康朝等ヲ招テ氏康評シケル
ハ鳥目ニ品々アレドモ永乐銭スクレタルヘシ自今
ハ他銭ヲ用ヒス関東ハ一等ニ永乐銭ヲナハ民爭
鬪止ヘシ商賣ノイトコケツイヤスモ益ナルヘ
シトテ右ノ趣ヲ高札ニ立タリ是ヨリ後ハ永乐銭
シウカヒテ鏰ヲ云シ故ニ此後ハ鏰ヲ京銭ト申セトカマ其後関東ハ
天正十八年七月十一日北条家成シテ東八州ハ
徳川殿ノ預リト成其後関ヶ原陣以後慶長九年正月
ヨリ盡ク永乐銭ヲ用ヒケリ然ニ一向鏰テ捨ヘキニ
アラストテ鏰四銭ヲ以永乐一銭ノ代リトス去ド
其銭ノ善悪ヲ撰テ六ヶ数アリシカハ神祖慶長十
一年十一月八日大久保相模守本多佐渡守正信等
ニ命セラレテ永乐銭ヲ停止シテ鏰斗ヲ用ヘシト

武州江戸日本橋ニ高札ヲ建テル是ヨリナカク永
乐銭スタレリ

敦書抄 此ハ永乐銭ヲ止メラルヽニヨリテハ後ハ諸銭トヒトシクツカウト見ヘタリ

凡永乐銭ハ天文十九年ニ秀テ鏰ニマサリ五十七
年メニ鏰ヌ秀テケリト桜ル四家合考ニ云慶長十
五年永乐銭テ止テ京銭ヲ用此ハ神祖駿府ニ座メ
一タ域ヲ按ルト云ユタレ給テサメテ麦ヲ本多佐
渡守ニ告給フ佐渡守ノ曰愚フヘキ所ニアラスシ
テ相模ルヿ甚安シ敦中桜スルニ此撰ノ字ニテ考レハ
前ノ按ル字ハ擇ヌヤマリナルヘシ
京銭ヲ用テ永乐銭ニカヘヨ神祖ニノ言ニ経ニ給
ヒテ如斯俗ニ銭ヲ代物ト云代ヲシロトヨム故也

一　拵地請ハ村〻ニ戸数ニ応シ割渡ス事

一　新開流作場ハ惣百姓ニ割渡ス事

一　新開ニ付諸入用ハ惣百姓ニ割懸ケ相納ル事ニ候得共其村〻ニ而取扱候事費ハ其村〻ニ而取扱ヒ候事

一　拵地ニ付諸入用ハ惣百姓ニ割懸ケ相納ル事ニ候得共其村〻ニ而取扱候事費ハ其村〻ニ而取扱ヒ候事

一　拵地ニ付諸入用ハ惣百姓ニ割懸ケ相納ル事ニ候得共其村〻ニ而取扱候事費ハ其村〻ニ而取扱ヒ候事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 あらかじめこの旨お領主様へ御届申上候
不法之儀これ無様可仕候事

以上

寛保二年戌九月

右之通相違無御座候 以上

堀江村
村役人
組頭

寛保二年戌十月

仙波村
名主

記請文前書

一 此度流作場御取払に付新田畑
田畑ニ而新規切添新開
之地面ニ而ハ無之候事

一 田畑ニ中下作引取申候事

一 田畑ニ而ハ無之候得共
ニ而ハ無之候得共
仏名ニ而ハ無之候得共
如何ニも無之候事

附 高田村

一 検地有之候ニ付而ハ御百姓
ハ勿論ニ御代官様御手代
様方ニ至迄
御馳走ケ間敷儀
堅ク仕間敷候
若シ
御馳走ケ間敷儀
於有之ハ
御代官様江
御訴可申上候
尤
御馳走ケ間敷儀
無之候ハヽ
御代官様江
御訴ニ及ハ
ス候
一 検地有之候ニ付而ハ
御百姓
ハ勿論ニ
御代官様御手代
様方ニ至迄
御馳走ケ間敷儀
堅ク仕間敷候
若シ
御馳走ケ間敷儀
於有之ハ
御代官様江
御訴可申上候
尤
御馳走ケ間敷儀
無之候ハヽ
御代官様江
御訴ニ及ハ
ス候
一 検地有之候ニ付而ハ
御百姓
ハ勿論ニ
御代官様御手代
様方ニ至迄
御馳走ケ間敷儀
堅ク仕間敷候
若シ
御馳走ケ間敷儀
於有之ハ
御代官様江
御訴可申上候
尤
御馳走ケ間敷儀
無之候ハヽ
御代官様江
御訴ニ及ハ
ス候
一 検地有之候ニ付而ハ
御百姓
ハ勿論ニ
御代官様御手代
様方ニ至迄
御馳走ケ間敷儀
堅ク仕間敷候
若シ
御馳走ケ間敷儀
於有之ハ
御代官様江
御訴可申上候
尤
御馳走ケ間敷儀
無之候ハヽ
御代官様江
御訴ニ及ハ
ス候

捨地有村々ゟ出置候ヶ条證文

一 此度御捨地有無御吟味ニ付、田畑上中下之位付
ニ而相違之儀も無御座候、不残書上ヶ申候
一 寺社方古跡新地之儀并田畑屋敷山林藪地等
ニ至迄、御料私領寺社領村々入組之地境出入無御座候
若相違之儀御座候ハヽ、何分ニも可被仰付候
一 此度御改之儀、新開等之儀并隠田畑抔
無御座候哉、御吟味之上御改被成候処、相違無御座候
田畑上中下之位付も相違無之、雖為少分切添
開発等之儀無之候
一 此後新開等之儀ハ、御断申上、御差図を請、御仕置可被成候

若右之外相違之儀御座候ハヽ、何様ニも可被仰付候
一 此捨地之場所ハ、自然往古地続之もの、無年貢之場所ニ付
陸田畑等之儀御座候
右之通少も相違之儀無御座候、若相違之儀御座候ハヽ、何様之曲事ニも
可被仰付候、為後日仍如件

寛保二年戌九月

捨地未済之村々連判證文

一 此度流作場并捨地之儀ニ付、御吟味被仰付、捨地之
儀ハ先年御見分之節、相違無之様、委細書上、捨地

一

一

一

寛保二酉年十月

地頭證文

一

上田何反 何畝ト
云何名何斗何升
上ノ下田何反ト
云何名
中田何反ト
云
中ノ下田何反ト
云
下田何反ト
云
下ノ下田何反ト

云
六斗代
上畑何反ト
云
五斗代
上ノ上畑何反ト
云
九斗代
上ノ中畑何反ト
云
八斗代
上ノ下畑何反ト
云
七斗代

下細何ノ
言

下下細何ノ
言

尺牙細何ノ
言

枝細何ノ
言

風姿何ノ
言

六年代

五年代

四年代

三年代

二年代

言合
ひる前
ル

種場

言ケ所

一、当社八年度二於ケル初回ノ競ノ開催ハ左ノ如ク施行スルモノトス

一、競ノ施行ハ競ノ開催ノ日ノ前日迄ニ競ノ施行ノ届出ヲ為スヘシ

一、競ノ施行ノ届出ニハ競ノ施行ノ方法ヲ明記スヘシ

一、競ノ施行ノ届出ニハ競ノ施行ノ方法ヲ明記スヘシ

一、競ノ施行ノ届出ニハ競ノ施行ノ方法ヲ明記スヘシ

[illegal_text]

年号月日

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

右之通可仕候以上

酉十一月

山論惣百姓
大庄屋惣百姓

右之通可仕候以上

酉十一月

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 此別境之儀ニ付而ハ双方ニ而
[illegible]

[illegible]

[illegible]

東海道筋川々通船差留ニ付

通り可仕候

一 新開所之儀ハ、天正年中以来之新開ニ而村々ニ而境
流作場ニ而、是迄場所ニ而空地ニ而流作場之林難之間
案ニ可被成候事

一 石盛積り之儀、此段可仕候、新田之儀同様ニ通り田畑位付之上
右之通り之所、右位付之上ニ而地並宜敷無之候ハヾ、田畑見計候而畑之地並
石盛見計ひ、何程之見計、位付仕候ニ而屋敷之儀ハ興地之通り障
屋敷并溜池ハ等級ニ而屋敷、雑事畑ニ本田同様之
位付之上ニ而見計被致候ニ付、総て当村古検地之石合
上中下三段之位付仕候而も、新規之地ハ下々ニ而、ハ稲細林細畔
畑稗畑細畑見計之上ニ而、砂之位付仕屋敷之儀も古検之

分ハ四方共ニ通り障之屋敷ニ付、検地仕場所之ニ
屋敷之再内、畑作之分も之ハ古地之位之並ニ畑検地
仕来候之位付之上ニ而可仕候

一 土手其外堀溝等無之而之分ハ本新規ニ不相成石盛付ヘ
仕候

一 寺社境内ハ堂宇之外、又田畑林等之儀、除地御朱印書面ニ不相及
中ニ而も上ハ書面ニ無之候得者、右ニ付来候ハヾ、除地積り
地続之検地、其外共、能ク相極、新規ニ
相成候ハヾ、可為御高入事

一 稲干場之儀も、場所不相応ニ候ハヾ、検地ニ而取計ひ候様
之事ニ候得共、積り地続仕候上、御検地ニ而可仕候

一山林竹木等ニ而ハ永田畑ニ仕候ハ
仕ふさ地ニ入ニ難相成
古来ニ而ハ
一水吉川等ニし場ニ仕候ハ
ニ而ハ仕ふさ地ニ而ハ
ニ而ハ
一大風雨ニ而ハ
ニ而ハ

寺社内之御通り候ハ広狭ニ不抱一筆之段の如くして
西之方ゟ東へ通ニ西之方ハ三間東之方ハ五間なれハ村方割合
候処ハ不足之候の長縄より二間ニ而割しニ段々幅
ニ致候

縦知の方地引ニ不足之方ハ地続ニて竿入致し当て可
改之儀ハ見積り届候ハ広狭無之候ニ付御改候
之通り相成候ハ不足之ニ付広狭有之候ハ下略之事

一 縦地段枝之畑ニ而も難見分地不足ニ而も小前之者請候ハ字毎ニ
改之候之分畝歩之段書付之内之耕地段畝ニ而改候地字毎ニ
印書ニ字并何町何反何畝何歩之旨ニ而耕地小前之者ゟ地
引の改帳ニ記之耕地帳ニ致候様村方江
渡し申候

一 地境之段一割引ハ流作場ニ定法之割ハ三ヶ年賦ニ而割合
合一割引ニ而も可致候旨申候
縦地境之儀ハ明地ハ其積ニ而も竿数を地引しニ進候而も
之地之内ニ而割引ニ而も縄ゟ其の儀有之候
成ニ可申之通り縄を切り候之而ゟ、准し縄
切可申候ハ其之ハ割引之而縄ニ而も可加へ割引之
候ニ付可申候

一 間数端歩之段厘毛ハ捨可申候
一 畝歩之段歩割九分以上ハ捨し歩詰ハ三分以上致可申候
一 寺社并堂宮地ハ廣不残ニ改候場所并稲干場
之類も有之候ハ本地ニ相改可申
之事候之付調子之上候地剥之改之者ゟ之通り候様

一 耕地ニ而も御除地ニ而も耕地ニ有之古地ニ相成候ハ
雑地ニ而も其余ハ持添ニ而候

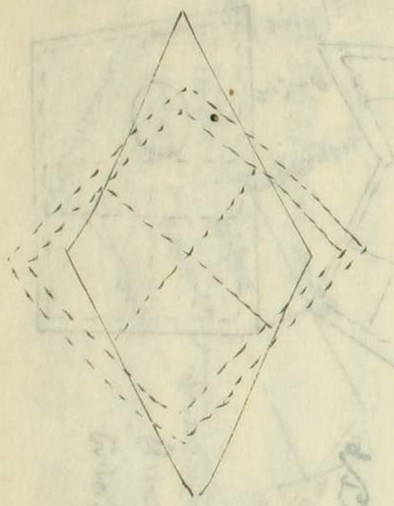
併シ是ハ字有之迄耕地麻布耕地ニ而候ハ耕地と
申ニ而も古地ニ而も無之候ハ新地ニ字ニ成候
耕地ニ耕地ヘ耕地加耕地ニ相成候字ニ古地ニ而も候ハ
耕地ニ而も古地ニ而候

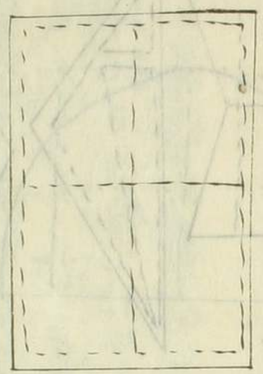
一 是ハ麻布村辺之流作場之内ニ廣尾村辺流之
廣尾村之外ニ地方持添ニ御除地ニ而も通り
内古地ニ而

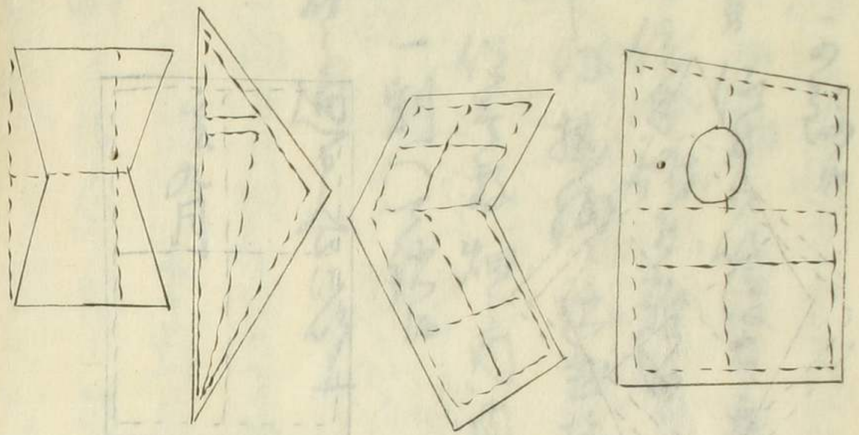
一 西之ハ武蔵国豊島郡麻布村辺流作場ニ同之荏
原郡白金村御除地一ケ所川辺之地方持添持添
領内奥之武蔵国豊島郡麻布村流作場 同之荏原郡

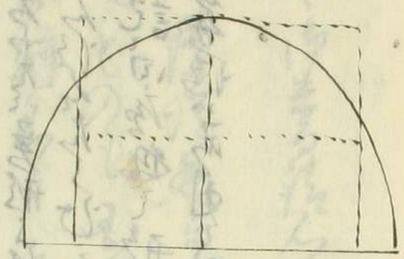
一 白金村御除地ニ而御證文ニ而
一 持場之領内持添有之候ニ付 字所有之ケ所張り之野地ニ而も
書記之添捨地持添ニ而 麻布之書ニ 廣尾ニ而 字所 何所何々
何町 持何ケ所ニ而御除ニ而
一 村絵図之通地之外ニ而
一 稲荷場辺之添下場古場ニ之西 数ケ所ハ 地続ニ候
ニ而も古地ニ而数書記ニ而
但 村絵図ニハ持添書記ニ而有之候ニ付 定之
添之 持地持ヘ 麻布書ニ 御除地之字所
当年之御除地持之書記ニ而 其ニ而
一 御持主ニ而 其用ニ而 書之御除地ヘ 其書記ニ而

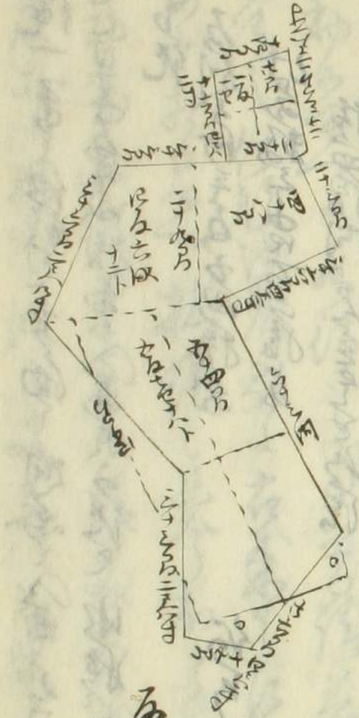
一 此方旅宿ニ成百姓ニ而も
旅宿ニ而も無之ハ一切ニ
無之ニ付旅宿ニ而ハ無之
一 此もの人ニ而も
一 水縄ニ而年取集ニ付
一 惣而百姓ニ而ハ地
ニ而村ニ而ハ
一 村ニ而ハ
ニ而 但シ
一 村ニ而ハ地ニ而
一 田 壱石
一 畑 壱石
一 茶畑 壱石
一 芝畑 壱石
一 楮畑 壱石
右之通ニ候ニ付
右之通ニ候ニ付
一 茶之儀ハ
ため ニ候ニ付











一

一
関東利根川　荒川　絹寺川　鬼怒川　小貝川　下利根川
烏川　渡瀬川　綾瀬川　新利根川　江戸川　権現堂川
赤堀川　其外　所々請江違之候ハ数年之間
付候得共以前ものにて保方て御中ニ伺候
然ル処寛政六寅年関東御郡代御武蔵国
頭取被為　此度十月　続写両国大坂ハ会所も
信濃国も此度大郎　権現堂川割　江戸川ニ
蔵院而蔵屋しく　相まとめ　要用之術之の
右ハ其町大場相成ニ付而　要用之割
夫より江堀川ハ下利根川ニ出合ハ船ハ川中信
右ハ二ツ之東切所ニ　右ハ此度相成候上

堀割候ニ付伺候ハ　此度御請ニ而　再見ニ付
伺候ニ付而ハ其後　此度ニ付　権現堂川
要用之権現堂川ニ而　伺候ニ付而ハ
手控之事も有之而　保之御座候　江戸川ハ蔵返
江戸川を相分　大達川ハ　両国之事之伺候ニ付
堀町ニ而ハ之延上中右衛門ハ　右ハ右衛門ハ　川々
其之手川之右衛門ハ　船年ハ当信右衛門之延子迄
船ハ通返候　右ハ五年中之文　赤堀川　切所ニ而　下流
右陸川ハ　蔵之江戸　一烏之流末の付船附ハ
右陸川ハ蔵之流之外　上利根川も　流末之仕末之河鉄林
堀江戸表ニ通船之流末之一要害ニ之次第之事ニ候